

●漁況情報

- 6月下旬から7月にかけて、各浜でタコかご・壺漁が盛漁となっております。佐島地区では、かながわブランド・プライドフィッシュ「佐島の地だこ」茹でダコ製品として、地元漁業者の直売所や魚屋で直売されております。佐島の地だこ直売情報 <https://sea.ap.teacup.com/sajima/>



かながわブランド・プライドフィッシュ「佐島の地だこ」

●浜の話題

- 7月1日、水産技術センター栽培推進部は、同部で生産したトラフグ種苗（平均46mm）を小田和湾の斉田浜で放流しました。今年は種苗生産が順調だった昨年と比べて更に良く、53,900尾（前年比14%増）を放流することができました。トラフグ種苗は活きが良く、放流用のホースから飛び出すと元気に泳ぎ出し、当日立合ったトラフグ延縄漁を営む長井町漁協福会所属漁業者10名余りも、2年後の漁獲対象資源への加入に期待を寄せていました。



トラフグ種苗放流の様子

- 7月2日、真鶴町漁協及び岩漁協が、（公財）相模湾水産振興事業団の支援分と組合購入分を併せて、計20,860尾のヒラメ種苗を真鶴～岩地先へ放流しました。また、同日福浦漁協は、1,500尾のヒラメ種苗を吉浜海岸へ放流しました。



ヒラメ種苗放流の様子

- 7月5日、神奈川県漁連及び水産課は、漁業就業希望者を対象とした「かながわ漁業就業促進センター」を開校しました。今年度は、5名の受講生が集まり、7月は各浜の漁業者にお世話になり座学を実施しております。8月以降は、実際に漁船に乗り込み現場研修をするそうです。



長井の指導漁業士の下での座学の様子

当センターでの座学

- 7月6日、長井町漁協潜水部会所属漁業者11名は、磯焼け対策の一環で、ウニ駆除を実施しました。当日は1人あたり300個前後駆除し、ガンガゼとムラサキウニの比率はおよそ7:3でした。藻場は地区によってはアラメが群生する地区も見られました。



潜水部会の若手からベテランまで一致団結して磯焼け対策に取り組んでいます

- 7月7日、藤沢市漁協は、水産技術センター相模湾試験場の支援を受け、チョウセンハマグリ（シロハマグリ）の採卵試験を行いました。親貝15個から数十万個の受精卵が得られたので、顕微鏡で観察を行った後、翌日にふ化した幼生を片瀬漁港へ放流しました。



チョウセンハマグリ（シロハマグリ）の放精



チョウセンハマグリ（シロハマグリ）の放卵

- 7月8日 小田原市漁協はヒラメ種苗の放流を行いました。ヒラメ種苗放流事業は小田原市漁協、同漁協刺網部会、（公財）相模湾水産振興事業団、（公財）栽培漁業協会の合同で行われ、合計53,000尾のヒラメを小田原地先に放流しました。



ヒラメ種苗放流の様子

- 7月9日、(公財)神奈川県栽培漁業協会と(公財)相模湾水産振興事業団は、腰越漁協所属漁業者の協力の下、マダイ種苗 23,000 尾とマコガレイ種苗 5,000 尾を地先の適地に放流しました。15日には、マダイ種苗 20,000 尾を葉山地先で放流しました。27日には、(一財)横須賀市西部水産振興事業団が、カサゴ種苗 4,000 尾を長井地先で放流しました。
- 7月9日 (公財)相模湾水産振興事業団が、小田原市漁協の協力でマコガレイ種苗、5,000 尾の放流事業を実施しました。放流は、主に酒匂川、山王川等の河口付近で実施しました。(中川)
- 7月12日、三和漁協上宮田支所の初丸(藤平さん)から金田湾で珍しいタコが獲れたとの連絡をいただきました。水産技術センターで調べたところ腕の上に特徴的な斑点を持つワモンダコでした。本来、このタコは八丈島、四国以南など暖かい海に生息する種類で本県では珍しく、45年間タコ壺漁をしている藤平さんも初めて見たとおっしゃっていました。温暖化の影響で魚市場でも南方系の魚を見かけることが多くなっていますが、タコでもその傾向がみられるようです。ワモンダコは藤平さんのご厚意により観音崎自然博物館に寄付させていただきました。



金田湾のタコ壺漁で獲れたワモンダコ

- 7月12日 平塚市漁協と大磯二宮漁協は、湘南広域水産業再生委員会の補助を受け、チョウセンハマグリの種苗各5千個(平均殻長37mm)を放流しました。漁業者は新たな漁獲対象種になるように期待を込めて放流しました。



チョウセンハマグリ種苗放流(平塚)



チョウセンハマグリ種苗放流(大磯)

- 7月13日、(公財)神奈川県栽培漁業協会は金田湾と北下浦地先でヒラメ種苗1万5千尾(平均60mm)を、金田漁港地先でみうら漁協金田湾販売所と金田湾遊漁部会はヒラメ種苗8,900尾(平均60mm)を、7月21日に松輪地先で(公財)神奈川県栽培漁業協会と(一社)日本釣用品工業会はマダイ種苗7万1000尾(平均60mm)を放流しました。



放流したヒラメ種苗

北下浦地先

金田漁港地先

- 7月15日以降、小坪漁協所属座間指導漁業士を始めとした合同会社「こつぽ」のメンバーは、当センター企画指導部の利用加工部研究員の指導の下、海ブドウの養殖を始めました。種苗購入では、先行の湘南グリーンキャビア様にお世話になり、順調に生産できれば、地元量販店等に出荷するそうです。



海ブドウ生産施設(キャベツ用二用に新設した生け簀を流用)

海ブドウ

- 7月19日 (公財)神奈川県栽培漁業協会及び(公財)相模湾水産振興事業団は、活魚車によるマダイ放流事業を福浦漁港、真鶴港、岩漁港及び小田原漁港で実施しました。各漁港でマダイの種苗10,000~25,500尾を放流し、今後の成長、生残に期待しています。
- 7月20日 大磯二宮漁協、平塚市漁協及び茅ヶ崎市漁協は、(公財)神奈川県栽培漁業協会及び(公財)相模湾水産振興事業団の補助を受け、マダイの種苗18~22千尾を放流しました。マダイの種苗放流は、去年から活魚車による陸上放流に切り替えており、浅場へ放流することで、どの程度の生残率が向上するのか、漁業者は注意深く見ていました。



各浜のマダイ種苗放流の様子

- 7月27日、横須賀市東部漁協走水支所所属の高取さん(高取丸)は、ペットボトルを利用したカキの採苗に取り組んでいます。タコ袋に入れた空のペットボトルをカキの付着している岸壁近くの潮間帯に1ヶ月半ほど設置したところ、カキの稚貝がペットボトルの表面に大量に付着していました。これらの稚貝は、容易にペットボトルから剥離することが出来ました。今後、フリーシードを用いたカキ養殖の

稚魚を確保するための方法として期待されます。



ペットボトルを利用したカキの採苗

- 7月29日、横須賀市東部漁協北下浦支所の組合員の立会いのもとで、(一財)東京湾南部水産振興事業団によるカサゴ(全長約8~10 cm、1万尾)の放流が北下浦漁港で行われました。



北下浦漁港で行われたカサゴの放流

- 7月30日、(公財)神奈川県栽培協会と(一財)南部水産振興事業団によるマダイ(全長約7~8cm、5万9千尾)の放流が行われました。マダイ稚魚は、栽培協会のある城ヶ島から活魚車で久里浜港まで運搬し、港からは横須賀市東部漁協久里浜支所の漁船に移送されて、建設中の横須賀火力発電所の地先に放流されました。



漁船から放流されるマダイの稚魚